

# 「だれでもピアノ®レッスンカフェ 2025」事業報告書

- 1、実施概要
- 2、レッスン
- 3、メディア掲載
- 4、受講生アンケート結果・コメント
- 5、講師振り返り
- 6、担当者振り返り

2026年2月

横浜みなとみらいホール



YOKOHAMA  
MINATO MIRAI HALL

横浜みなとみらいホール

## 1. 実施概要

- (1) 趣旨 楽器の習得を通じ、音楽に触れることで「心と身体」への影響がどのようなものがあるか、ピアノのグループレッスンを通じてエビデンスを取得し検証を行う、東海国立大学機構と横浜みなとみらいホールによる協働研究事業。
- 右手を1本指で演奏すると、左手の伴奏とペダルが自動演奏機能で追従する、東京藝術大学とヤマハ株式会社により開発された「だれでもピアノ®」機能を活用し、65歳以上のシニアにピアノレッスンを提供する。
- 受講生はレッスンの代替に、調査に研究をすることへの同意を前提とする。
- 横浜みなとみらいホールでは、2023年度より本研究を行い、ピアノのグループレッスンが「幸福度向上へ寄与する」という一定の傾向のデータを得られている。さらなるサンプル取得と検証を目的に第3回目として実施した。
- (2) 開催日 ■レッスン（全6回）
- 2025年12月11日（木）、18日（木）、25日（木）  
2026年1月8日（木）、15日（木）、22日（木）
- 【Aグループ】10:00～11:30、【Bグループ】12:00～13:30、【Cグループ】14:30～16:00
- ※12月11日（木）初回は、3グループ合同で10:00～13:00に実施
- ※1月29日（木）は自主練習日として会場を提供
- 修了発表会
- 2026年2月3日（火）13:30～15:00
- (3) 会場 レッスン 横浜みなとみらいホール 6階事務室  
修了発表会 横浜市役所アトリウム
- (4) 講師 新井 鷗子（横浜みなとみらいホール 館長）  
西本 梨江（ピアニスト）
- (5) 運営 統括 横浜みなとみらいホール 事業企画グループ 藤井聡子  
ファシリテーター 神奈川大学（4年）  
運営補助 横浜みなとみらいホール 受付スタッフ  
1グループの体制 講師1、ファシリテーター1、運営担当1、運営補助1 計4人
- (6) 実施主体 主催：横浜みなとみらいホール（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）  
共催：東海国立大学機構 名古屋大学大学院医学系研究科附属

健康医療ライフデザイン統合研究教育センター (C-REX)  
 協力：東京藝術大学、ヤマハ株式会社 (技術協力)  
 医療法人五一六五 ナゴヤガーデンクリニック (調査分野)  
 後援：横浜市

- (7) 募集
- 募集人数 15名 (各グループ5名)
    - 【A グループ】 10:00~11:30
    - 【B グループ】 12:00~13:30
    - 【C グループ】 14:30~16:00
  - 応募条件
    - ア、ピアノ未経験者、初心者
    - イ、65歳以上
    - ウ、全レッスンおよび、修了発表会への参加
    - エ、スマートフォンの所有 (オ、カへの調査協力に必要)
    - オ、受講期間中の身体データの提供への同意 (機器 Fitbit 貸与)
    - カ、受講期間中の LINE によるアンケート回答への同意
  - 募集方法 チラシ配架 (市内文化施設等)、横浜みなとみらいホール SNS など
  - 応募人数 45名 (内3名辞退、1名条件を満たさない応募。抽選/3.4倍)



だれでもピアノレッスンカフェ申込書  
 必要事項をご記入の上、メールまたは郵送にて申込書をご提出ください。  
 締切期日は11月20日までにお申し込みください。その後は受付できません。

E-mail: mmh@yaf.or.jp  
 〒220-0012 横浜みなとみらい2-3-6  
 横浜みなとみらいホール「だれでもピアノレッスンカフェ」事務局  
 申込受付:2024年11月20日(金)必着

※お問い合わせ先: 事務局 (受付時間: 平日10:00~17:00) 受付時間外はメールにてお問い合わせください。  
 ※お問い合わせ先: 事務局 (受付時間: 平日10:00~17:00) 受付時間外はメールにてお問い合わせください。  
 ※お問い合わせ先: 事務局 (受付時間: 平日10:00~17:00) 受付時間外はメールにてお問い合わせください。

【申込資格】 申込期間中は未だ「だれでもピアノ」(有料)を習得していません。  
 2025年12月25日(金)の開催時に「だれでもピアノ」のレッスンが受講できる方。

お名前	姓	名	フリガナ
性別	□男 □女 □未定		
生年月日	年 月 日 (西)		
住所	〒 番 号		
電話番号	-		
メールアドレス	-		
申し込み理由	希望するレッスン回数(週1回/2回/3回)を記入してください。		
スマートフォン所有	□有 □無 □不明	希望する機種(機種名を記入してください)	
希望期間	□12月12日 □12月19日 □12月25日	□12月12日 □12月19日 □12月25日	□12月12日 □12月19日 □12月25日

申込書に記入された情報は、事務局にて管理させていただきます。お問い合わせ先: 事務局 (受付時間: 平日10:00~17:00) 受付時間外はメールにてお問い合わせください。

- (8) 受講生 14名 (1名辞退 \*健康上の理由)
- ア、性別 男性7名/女性7名
  - イ、年代別 60代後半5人/70代前半4人/70代後半4人/80代前半1人
  - ウ、居住地 横浜市11人、東京都1人、千葉県1人、川崎市1人
  - エ、グループ A 5人、B 4人、C 5人
  - オ、出席 1名風邪のため1回欠席 (A 男性1/8)

(9) 非受講生 (調査協力者)

5名

ア、性別 男性3名/女性2名

イ、年代別 60代後半2人/70代前半2人/80代前半1人

ウ、居住地 横浜市2人、東京都2人、兵庫県1人

※比較対象としてLINE調査のみ協力(非公募にて募集)

## 2、レッスン

レッスンは昨年同様5人ずつ、3つのグループ(各1時間半)に分かれて実施。

アップライトと、電子ピアノの2台を活用してレッスンを行った。

受講生の習得や元々のピアノや楽器体験にも差があるが、差があることを意識させずに、それぞれが自身の目標を持てるようにサポートを行う。

### 第1回：12月11日(木)

初回はオリエンテーションの位置づけとし、受講者14名全員で行った。

(1) 新井館長による「だれでもピアノ®」の説明

ア、開発の経緯

イ、活用事例

ウ、昨年の研究結果 等

(2) 新井館長、西本先生によるレッスン

ア、準備運動 会期中を通じ必ず実施

イ、「だれでもピアノ®」デモ演奏

ウ、紙鍵盤を使用した指の動かし方の練習

エ、ピアノでの練習

(3) 名古屋大学杉下助教による説明

ア、心と身体健康とは何か

イ、音楽とウェルビーイングの関係

ウ、研究方法

エ、具体的な調査方法、データ提供同意

(4) Fitbit、LINE アンケート設定



※初回は「だれでもピアノ®」開発者の一人であるヤマハ株式会社の古川氏、次年度本事業の実施を検討している福井県文化振興事業団（3名）、横浜市芸術文化振興財団事務局長の視察があった。

## 第2回：12月18日（木）

A、B、Cの3グループに分かれ、本格的なレッスンを開始。

恒例の体操から始め、身体と声を使いながら、緊張もほぐすよう心がけた。

受講生からの希望もあり、グループごとに自己紹介を行い、応募のきっかけや居住地、ピアノ・楽器歴などを話していただいた。

レッスンでは、「きらきら星」「よろこびの歌」などの初級曲を弾き、指使いの習得を中心に練習を行った。

自宅の楽器保有状況はさまざまだが、多くが自宅で復習をしてきていた。

自身の希望曲（通常楽譜）のレッスンを希望する方など、「だれでもピアノ®」を活用した本事業を理解していない方もおられた。

積極的な方が多いが、受講生同士が交流するというよりは個別にスタッフや講師に話しかける印象。

※2回目は「だれでもピアノ®」開発者のひとりであり、東京藝術大学教員の高橋幸代先生の視察があった。





### 第3回：12月25日（木）

「よろこびの歌」「ふるさと」など初級曲の復習を行うとともに、修了発表会の曲を講師がデモ演奏し、希望を確認した。

過去2年あまりなかったケースとして、上級曲「ノクターン」を希望する受講生が多い一方、3回目のレッスンになるが、初級曲に苦戦する受講生が数名いた。レッスンを継続してもらうことを念頭にコミュニケーションをとりながら指導を行った。

受講生同士はコミュニケーションを少しずつとれるようになった。性別でグループが分かれる傾向にあった。ファシリテーターが体調不良のため、お休み。

※3回目は次年度本事業開催を検討している福井県文化振興事業団の講師候補である「越のルビーアーティスト（ピアニスト）3名の視察があり、レッスン補助に入った。

よろこびの歌 きらきら星 ふるさと 荒城の月

威風堂々 アメイジンググレイス ジムノヘディ第1番  
星に願いを アヴェマリア

エリーゼのために 大きな古時計 横浜市歌

ノクターン





#### 第4回：1月8日（木）

修了発表会に向け、各自選択曲に取り組んだ。

自身で選択した希望曲に取り組むことで、受講生のモチベーションが向上した様子。

一方で、希望曲のみを復習してきたことから、初級曲が弾けなくなったり、自分の選択した曲以外の簡単な指使いがわからなくなったりという受講生も多くみられた。

発表会形式で弾く練習も実施。他者の演奏を聴く練習も兼ねている。

1か月が経過し、グループごとの個性も出てきており、笑顔や受講生同士のコミュニケーションも多くなった。受講生がよく声が出ているのはよい傾向。基礎練習を重ね、自身の好きな曲が弾けるようになったことから達成感を感じている様子が見られる。しかしながら、自身の練習に集中するあまり、他人の演奏を聴けず、話しを聴けない受講生もみられた。

一部の受講生には、レッスン後にグループメンバーでヤマハへ練習に行くなど、打ち解けた様子がみられた。

※ファシリテーターが体調不良のため、Aグループ欠席。Cから参加。ホール職員の飯島がサポート。

※Aグループ男性が風邪のため欠席。（ホールに到着してから、帰宅）





## 第5回：1月15日（木）

修了発表会に向け、各自選択曲に取り組んだ。

同じ曲を選択した受講者同士が協力してレッスンにのぞむなどの自発的な協力体制がみられた。

レッスン事業終了後のピアノの継続や、連絡網などについて、リーダーシップをとる受講生が出てきた。

お互いの演奏を称え合えるなど、連帯感が生まれてきたグループもみられた。

※A,B グループに、朝日新聞横浜総局の取材が入った。



## 第6回：1月22日（木）

最終レッスン。修了発表会に向け、各自選択曲に取り組んだ。

アップライト、電子ピアノ、グランドピアノと、3台のピアノを活用。

発表会形式での練習を挟みながら、他の受講生の演奏を聴く勉強も引き続き行った。

演奏を聴く力・姿勢は、グループごとに差が出たと感じた。

非常に集中して臨んでいたが、難易度の高い曲を選択した受講生も多くミスなく弾ける受講生が少なかった。



## 自主練習日：1月29日（木）

6階事務室を開放し、講師は参加しない自主レッスン日を設定した。

運営はファシリテーター2名で対応。藤井も後半加わった。

3時間の自主練習に、10名が参加。ピアノを譲り合いながら和やかにレッスンを行った。

互いのピアノを聴き、称え合う姿が見られた。

また、昨年の修了生をゲストとして招き、レッスン後の活動の紹介や相談を受けた。

※「週刊エコノミスト」の取材が入った。



修了発表会：2月3日（火）

リハーサル時にペダルの自動演奏機能にトラブルがあったが、受講生は落ち着いて対応。システム復旧し、昼食後に再度リハーサルを行った。

発表会では、冒頭、新井館長による挨拶や「だれでもピアノ®」についての説明を行った。その後、受講生14人による演奏と、演奏後にひとりひとりインタビューを行った。

東海国立大学機構 C-REX を代表し、水野特任教授による研究についての説明をいただいた。「脳と腸の関係」や「脳を活性化させるストレッチ」などは来場者にも興味深く、体操に参加。

終了後、修了証の授与、新井館長からの花束贈呈、西本先生によるデモンストレーション演奏を行った。受講生同士や講師、ファシリテーター等と記念撮影を積極的に行い、終了後、受講生で打ち上げを実施。

鑑賞者：62名。

※朝日新聞横浜支局、「週刊エコノミスト」による取材があった。

※共同研究者の名古屋大学をはじめ、「だれでもピアノ®」開発者のヤマハ株式会社、東京藝術大学が揃って出演者を見守った。

※次年度本レッスンを開催予定の福井県文化振興事業団による視察があった。





### 3、メディア掲載

会期中に以下の媒体に取材があった

(1) 媒体 : 朝日新聞 (地域面)

掲載日: 近日中

取材 : 2026年1月15日(木) 5回目レッスン、2月3日(火) 修了演奏会

記者 : 朝日新聞(横浜支局) 村上記者

(2) 媒体 : 週刊エコノミスト

掲載日: 3月16日(月)

取材日: 2026年1月29日(木) 自主練習会、2026年2月3日(火) 修了演奏会

見出し: コーナー 情熱人 新井鷗子

### 4、受講生アンケート結果・コメント

講座の内容	満足 100%
講師やスタッフのサービス	満足 100%
ホールの使い勝手や清潔さ	満足 92.9% やや満足 7.1%

※5段階評価 (満足/やや満足/普通/不満/やや不満)  
※回答数 14 (全員)

#### ●Bさん (60代女性)

参加者の皆さんが真摯にピアノと向き合っていたので感化されました。1月中旬あたりからは、毎日のようにピアノに向かいたくなって、満足するまで弾いていたら1、2時間経っていたということも珍しくなりました。飽きっぽい私には驚くべきことです。(60代女性)

#### ●Tさん (70代男性)

場所的に非日常を感じる事ができました。レッスンは、生活に心地良い緊張感をもたらしました。

#### ●Iさん (60代女性)

まず楽譜が読めないというのと、それから初めてピアノを弾き、ドは一体どこにあるのっていうところから始めたので、今ちょっとほっとしています。今までちょっと拒否をしてわけではないですけど、怖かったけれど、これからちょっともっとやりたいなって気持ちにさせていただきました。

●Kさん（60代男性）

先生方も一緒にレッスン受けていた生徒さんたちもみんな本当に楽しくて楽しい時間をただ過ごしたという記憶しか残ってないです。

●Fさん（70代男性）

ピアノを弾いてみたいとの思いは以前からありましたが、ほぼ無理と諦めておりました。ですからチラシにてこの企画を知った時には、飛びついた訳です。この間一心不乱に練習しました。今後も続けたい気持ちがあります。6回のレッスン、そして今日の発表会と、年甲斐もなくワクワク気分で過ごすことができました。このワクワク感を維持しながらもうちょっとだけ長きしたいと思います。

●Nさん（70代女性）

ちょっと浮離れした温かい空間と時間で、練習中ずっと先生もスタッフの皆さんもメンバーの皆さんも笑顔と拍手の中で練習が進んでいて、ちょっと説明できないような時間でした。とても良い時間を過ごさせてただいて感謝しております。

●Rさん（70代男性）

ドリームズカムトゥルーですね。小さい時から音楽が好きだったんですけども家庭にそういう環境がなかったもので全く楽器に触ったことがなかったんです。今年69歳ですけども、全く鍵盤を見たこともなかったんですよ。先生に2ヶ月ほど6回ほど教えてもらって、家内からもご指導いただいてなんとか弾けました。

●Oさん（70代女性）

色々な地域の方と会いお話しが出来て脳が活性化され楽しい時間でした。周り携わってくださった人たちがとっても、穏やかで優しい気持ちになれていつもレッスンは最高にハッピーでした。

●Mさん（80代男性）

今回のレッスンを通じて、自分にもなんかできるなっていう気持ちになり、これからもうなんか新しいことにも挑戦できそうだという気持ちになりました。

## 5、講師振り返り（館長 新井鷗子）

ウェルビーイング向上の効果検証に関する研究協力を条件に、65歳以上の参加者を公募。

50名近い申し込みがあり、厳正な抽選により15名を選出。1名怪我で辞退のため、合計14名でレッスンをスタート。

性別内訳は、7名女性（65,65,72,72,72,76,76歳）、7名男性（67,68,68,70,75,75,81歳）。

### レッスン総評

プロジェクト3年目で「だれでもピアノ」認知度の増加もあってか、今回の参加者は①「ピアノを弾けるようになりたい」と強い動機を持って臨んだ人と、②「ピアノを弾いてみたい」とゆるい動機の人とに、二分されていたように思う。

①の参加者は、レッスン開始時から「弾きたい曲」をほぼ心に決めていて、自らの練習に集中していた。一方、女性は、同じ「弾きたい曲」を目指す者同士で結束力を高め、日常を報告し合うなどの親密な交流も見られた。

モチベーションが高いので当然上達も早いですが、練習を重ねていくにつれ、自分自身の変化に柔軟な対応ができなくなる傾向があった。こうした、こうなるはず、との思い込みが強いため、指導のアドバイスが耳に入らなかったり、自分への焦りから演奏が崩れてしまうことも多かった。

②の参加者は、①の参加者との意欲や実力の差を目の当たりにして継続的な興味を失う傾向があり、講師やファシリテーターが、挫折しないように鼓舞していった。しかしそうした指導が功を奏して、発表会本番の日が物理的に近づいてくるにつれ練習にも集中力が増し、目標に到達する喜びを感じた様子だった。

今回、積極的に質問したり感じたことを発言したりするなど、自己アピールの強い参加者が多かった。個人から出た質問をグループで共有することによって、ピアノや音楽への理解が全体として深まるなど、プラスの効果が大きかったことは特筆すべきである。それぞれが自分独自の音色を奏でようとする「音楽的な」表現力が、3年間で最も高かったように思われる。

レッスン方法としては、男女比半々の4-5人1組のグループレッスンにつき講師が1人、大学生1人とスタッフ1人のファシリテーターが付き、参加者と講師とファシリテーターの年齢差は三世代にまたがる。参加目的もバックグラウンドもまったく違う「多世代の他人」との交流は、自然には決して生まれ得ず、人工的な仕組みづくりによってのみ可能になる。その人工的な交流の「場」を提供すること、それにより高齢者の孤立を解消することが公共ホールの使命であると感じた。

## レッスン方法

12月～1月の期間のため、年末年始の休暇をまたぐ。昨年度まで12月・4回、1月・2回というレッスン振り分けだったが、今回は、12月・3回、1月・3回で実施した。

正月休みの自主練習が上達の幅に大きく響く形となったが、受講生全員とも比較的安定したペースで練習を続けていた様子。

レッスンは、お茶を飲みおしゃべりを楽しみながらピアノを弾く「カフェスタイル」をとる。

グループレッスンでは、同じピアノで同じ曲を順番に弾いていくため、自分の演奏を他人に聴かれ、他人の演奏を自分も聴くこととなる。1人ずつ演奏した後は「自然に」全員から称賛の拍手が起こる。

グループレッスンのプラス面は、「人前で演奏する」「同じ曲を他人の演奏で何度も聴く」という二つの効果により、緊張感が持続し、課題曲を（耳から）覚えるスピードが格段に早くなる。

逆にマイナス面は、人前で演奏する恥ずかしさが先に出てしまい、自分の演奏の欠点にじっくり向き合えない。

## レッスン内容

冒頭では、全員でウォーミングアップの指体操を実施。指番号を声に出しながら1本ずつ動かし、指を独立させていく運動を、声を出しながら行う。できる人できない人のばらつきが出るのが逆に場を和ませる効果となり、必ず笑いが起こり、コミュニケーションが生まれる。

1-3週目までのレッスンはグループレッスン中心。全員で初級曲（よろこびの歌、きらきら星、ふるさと）を階名で歌いながら練習する。ピアノ実機で一人ずつ順番に演奏。他人が弾いているときは机上の紙鍵盤でメロディを歌いながら弾く。

4週目レッスン休み。

5-7週目は、個人レッスン中心。発表会で弾く曲を自ら選び、その曲の練習に集中する。

8週目は自主練習日。ABCグループ合同練習なので、ここで新たな交流が生まれる。

9週目修了発表会。

## レッスン雑記

- ・楽曲や指導法について活発に質問してくる参加者が例年より多かった。積極的な発言の多い者は、ピアノの上達も早かった。
- ・社交が苦手と言われる日本人高齢男性の心の壁を崩す突破口に「だれでもピアノ®」レッスンカフェが機能することを期待したい。

## 修了発表会後の感想

「ピアノが弾けたことで、自分はずっとできるのではないかと思い直し、他の新しいことに挑戦してみようという意欲が湧いてきた。」

「レッスン中ずっと賞賛の拍手と温かい励ましばかり。こんな夢のような空間はちょっとないのではないか。」

「レッスンに通うのが本当に楽しかった。」

「自分がピアノを弾くなんて夢のような2ヶ月だった。」

・水野正明先生からの講評

「脳腸相関」でピアノを弾くと効果も倍。お腹で思って脳で動作に移す。

## 6、担当者振り返り（事業企画グループ長 藤井聡子）

### 応募状況

2024年ほどの倍率ではないが、今回も抽選となった。身体的な理由での辞退が数名あった。昨年の抽選に外れ再応募の方も多かった印象（問い合わせベースでの所感）。

### レッスン

2024年に続き、電子ピアノを含む基本2台で運用。

講師のお二人は2023年度、2024年度と同じ新井館長、西本先生にお引き受けいただき、ファシリテーターに加え、運営補助の受付スタッフを今年は1か月固定で同じ方をお願いした。運営メンバーを固定することで、より受講生とスタッフのコミュニケーションがとり易くなった。福井県文化振興事業団の「越のルビーアーティスト」やホールの職員などがレッスンサポートに加わる回があった。

3年目の開催となり、6回のレッスン自体はかなり確立されたものになったが、グループごとの個性により、例年以上に進行に差が感じられた。

### 参加者の行動

1か月经過し、年をまたいだ段階で、ピアノの上達や希望曲の演奏などの要素もあり、受講生同士のコミュニケーションや笑顔が多くみられるようになった。

女性同士は、レッスンの後にお茶をしたり、ヤマハシンフォステージに立ち寄りたりなどの行動が見られた。

「6回のレッスン終了後にどうピアノを継続するか」受講生同士が話を始めたのも2024年度より早かった。

風邪での欠席以外（1名1回のみ）、全員が6回のレッスンに休まず参加した。3年連続で1人の脱落者も出ていないことは、本事業の成果と言えるだろう。

ピアノに苦手意識を持っているように見受けられた受講生には、講師・スタッフ等、主催者側が積極的に声かけや指導を行った。不公平に見えていないか配慮を行った。

今年度の参加者は個性的で活発な方が多くシニアと思えぬ活力を感じた。積極性からか、過去2年に比較し、

対応せねばならない個人案件や時間が非常に多く、グループ単位で進行していくことが容易ではなかった。2024年度に比較し「感情をこめて理想的に弾きたい」という熱意の強い受講生が多い一方、初めてピアノに触れた方や、仕事を持ちながらレッスンに通っており復習の時間がなかなかとれない方もおり、習得の差に不安を感じてしまう受講生もいた。十分に心のフォローができなかったかもしれない。

シニア事業の特性として、人生経験が豊かな方が多いため、緊張がなくなると打ち解けるのが非常に早い。この期間に要する時間として2か月6回という期間は、「だれでもピアノ®」レッスンの習得とグループ形成の両面から適していると考えられる。

一部の受講生有志を中心に、横浜みなとみらいホールの練習室を会場に、西本先生によるグループレッスンを立ち上げる動きがあった。また、マイペースに継続したいと、月2回程度の個人教室に通うことを決めた受講生もいた。楽器の購入はよく検討してから大丈夫と伝えたが、レッスン期間中に電子ピアノやキーボードを購入した受講生が数名いた。

6回のレッスンを通じ、ピアノ愛好家が生まれたとともに、楽器の購入やレッスン料、利用料などの経済波及効果にも及んだ。

#### ホールの役割として

共通の目的を持った人々が、新しいことに挑戦する姿勢から例年学ぶことが多い。志のある方々へ、自分の力で進んでいくまでの助走を支援する。グループレッスンは互いに励ましながらの上達への手法のひとつであったが、「人と人がつながり、新しい関係を生む」ところまで伴走できたことは、地域の拠点としては大変嬉しい成果であった。

昨年の事例を踏まえ、レッスン事業終了後の「コミュニティ形成」に向け、受講生同士のつながりをどのように作っていかせるか意識をし、1対1ではなく、複数人と同時に話をするなどの工夫をしたが、修了発表会の様子を観察すると、人の助けなどなくとも「同じ目標を持つ」ことで十分に解りあえていると実感した。

また、馬車道駅のストリートピアノや、ヤマハシンフォステージや島村楽器（マークイズみなとみらい内）などの楽器店をめぐるなど、目的をもった街歩きを行う受講生も多くみられた。脳を活性化させ、歩くことで健康促進すると同時に、横浜みなとみらいホールを起点としたエリア回遊をもたらせたことも、当ホールの立地や「ミュージック・シティ」の都市計画を活かした成果となった。